

学位審査結果報告書

学位申請者者氏名 深堀 真司

学位論文題目 Implant-supported fixed prosthesis improves nutrient intake in patients with partial edentulous posterior regions.

審査委員 (主査) 鱒見 進一

(副査) 辻澤 利行

(副査) 安細 敏弘



学位審査結果の要旨

本論文は、臼歯部部分欠損症例において、インプラント支持固定性補綴装置による治療介入が摂取食物や摂取栄養素に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした研究である。

対象者は九州歯科大学附属病院および6つの関連歯科医院を受診した、臼歯欠損部にインプラント治療を行う予定の30名(平均年齢 59.8 ± 9.2 歳)としている。除外基準は(1)コントロール不能な全身性疾患を有する者、(2)部分床義歯を着用している者、(3)本研究期間中にインプラント治療以外の歯科治療を受けた者としている。Brief-type self-administered diet history questionnaire (BDHQ)を用いて、上部構造装着前(ベースライン)および最終上部構造装着1か月以上経過後(治療後)の2回、摂取食物および摂取栄養素を評価した。統計学的解析にはWilcoxon signed-rank testを用い、 $p < 0.05$ を有意とした。

対象者は、遊離端欠損患者17名、中間欠損患者10名、遊離端欠損と中間欠損の両方を有する患者3名、インプラントの埋入本数は1本:6名、2本:17名、3本:4名、4本:2名、6本:1名、埋入部位は、第一小臼歯部:11本、第二小臼歯部:15本、第一大臼歯部:28本、第二大臼歯部:12本であった。

摂取食物について解析したところ、ベースラインと比較して治療後は野菜類($p=0.043$)、豆類($p=0.037$)の摂取量が有意に増加し、野菜摂取の詳細では、ニンジンおよびカボチャ($p=0.006$)が有意に増加した。摂取栄養素に関しては、ベースラインと比較して治療後は総食物繊維($p=0.008$)、植物性タンパク質($p=0.008$)、 α カロテン($p=0.032$)、ダイゼイン($p=0.009$)、ゲニステイン($p=0.009$)の摂取量が有意に増加し、総エネルギー($p=0.629$)や、脂質($p=0.530$)、炭水化物($p=0.339$)といった主要栄養素、ビタミン類、ミネラル類の摂取量は、治療前後で有意な変化は認められなかったとしている。

本研究より、臼歯部部分欠損症例においてインプラント支持固定性補綴装置による治療介入が摂取する食物に影響すること、とくに野菜類、豆類の摂取量を増加させ、その結果として摂取栄養素を変化させることが明らかとなった。今回摂取が増加した栄養素である植物性タンパク質、食物繊維、 α カロテン、ダイゼイン、ゲニステインは健康状態を改善する多くの機能を有するため、臼歯欠損部にインプラント支持固定性補綴装置で治療介入することにより、全身状態の改善に寄与する可能性が示唆されたと結論づけている。

本論文は、補綴歯科臨床において非常に有意義な論文であり、また公開審査における質疑応答も特に問題は認められなかったことから、本審査委員会は学位論文として価値あるものと判断した。